DJ-P322 セットモードの拡張について

　DJ-P322 特定小電力トランシーバーには､環境や特定のニーズによってカスタマイズできると便利な項目を｢拡張セットモード」に採用しています。一度設定したら変えることが少なく、電池が早く減るなど「故障かな？」と思うような動作をしたりする項目もあるので、敢えて通常のセットモードの操作とは別にして、説明書にも記載していません。

　内容を良くご理解いただいたうえで操作していただきたいので、本書でも操作方法は敢えて最後に記載しました。増えた項目は、通常のセットモードメニューの後ろに続けて表示されます。

　管理者が行った設定をユーザーが知らずにリセットするリスクを減らすため、これら拡張メニューは設定変更後に再び表示を隠すことができ、通常のリセット操作では初期化されないようになっています。

[拡張後に使えるセットモード項目]

１：スケルチレベル(SqL)
設定値 0～5（初期値 3）

ＦＭ電波特有の、通話が無いときに聞こえる「ザー音」（ホワイトノイズ）を消す「スケルチ」の調整です。工場で標準的なレベルに調整してありますが、ノイズが強い環境などで、通話していない時にカサカサと音が出る場合にレベルを上げます。上げ過ぎると弱い信号も消してしまうため、通話距離が短くなったと感じられることがあります。逆にノイズが低い環境では、レベルを低めに設定することで弱めの信号でも受信しやすくなる場合があります。レベルをゼロにすると、常に「ザー」というノイズが聞こえるようになります。

※常に強い信号で良好に通話できる環境では、スケルチレベルを上げて弱い信号を受信しにくくすると、混信によるキャリアセンスが働きにくくなります。
※グループトーク機能設定時はレベルをゼロにしてもホワイトノイズは聞こえません。

２：キーロックするまでの時間(LoC)
設定値 1～3 秒（初期値 2 秒）

指定のキーを 2 秒押すとキーロックが掛かりますが、このタイミングを 1～3 秒の間で変更できます。

※キーロックは FUNC キー長押しの簡易と、FUNC と GROUP を押す２種類があります。

３：バッテリーセーブ(bS)
設定値 OFF／ON1／ON2／Eco（初期値 ON1）

電池の減りを抑えるバッテリーセーブ（BS）動作を３段階から選べます。BS は待ち受け時、自動的に回路の電流を素早いスパンでオンオフさせる機能です。オフのタイミングを長くとるほど電池の減りは少なくなりますが、相手の通話の始まりの部分を受信し損なう（頭切れ）リスクも高くなります。BS はいったん通信が始まると着信バイブレーターやベル機能同様、てきぱき通信している間は作動しません。（頭切れは起きません）
通常の受信だけでなく、スキャン、モニターなど受信にかかわる機能を使用中も BS は効かなくなります。

OFF ：バッテリーセーブしません。電池が一番早く減ります。データ通信など特殊な用途で BS を切る必要があるため設けていますが、通常の連絡用通信ではオフにするメリットはありません。

ON1 ：弊社規定の標準値です。通常はこの設定をお勧めします。短い頭切れが起きることがあります。

ON2 ：電池の減りはさらに少なくなります｡液晶ディスプレイ照明設定に関係なく､照明は点灯しなくなります。１０秒以上通話が途切れた後で送信するときは、PTT を押して一呼吸おいてから話し始めれば頭切れは起きません。

Eco ：電池の減りは最小になります。液晶ディスプレイが点灯しなくなり、しばらく通話が無いと待ち受け中ディスプレイに「ECO」の表示が点滅します。「ECO」点滅中は PTT キーとサブ PTT キー以外のキーが反応しなくなります。以下のいずれかで「ECO」状態は解除されます。１０秒以上通話が途切れた後で送信するときは、PTT を押して二呼吸（２秒弱）おいてから話し始めれば頭切れは起きません。
＊サブ PTT キーを１回押す　＊PTT キーを押して送信する　＊通話相手の信号を受信する

※　ON2 や Eco に設定していても、VOX、減電池アラーム、個別呼出、通話圏内確認、連結中継子機のいずれかを有効にすると BS 動作は自動的に「ON1」状態になります。

４：電池電圧表示（数字）

拡張後この項目に合わせると、お使いの電池のおよその電圧を数字表示します。電池が弱ってきたときの数値を覚えておけば、電池残量の詳しい目安になります。（テスターのような精度ではありません、あくまで目安の数値です。）

５：マイクゲイン調整(mG)

設定値 1～7（初期値 4）

通話時のくせ（声量、マイクと口の間の距離…）やアクセサリーマイクのゲインなどの都合で、人によってトランシーバーに入る音声信号レベルは異なります。このため、音が小さい（話す声が小さい＝レベルを大きくする）、音が歪む（声が大きい＝レベルを小さくする）等の場合に調整できます。適当に設定するとかえって音が悪くなるので、しっかり通話テストをしてからお使いください。

６：デュアルオペレーション再開時間設定(dt)

設定値 1～5（初期値 5 秒）

デュアルオペレーション（ＤＯ）モードで通話が終了したあと、交互受信（スキャン）が再開するまでの時間です。初期値は 5 秒ですが、運用の仕方によっては早い方が便利な時もあります。環境に合わせて変更してください。

７：4 極オプション使用時の本体 PTT・本体マイク設定(Pt)

設定値 OFF／OUT／ALL（初期値 ALL）

4 極１軸ねじ込み式のマイク類オプション（イヤホン・スピーカーマイク等）を接続して使用する際に、本体の PTT と内蔵マイクの有効／無効を設定できます。使用状態に合わせて変更してください。

OFF　：本体 PTT 無効・本体マイク無効（オプションマイクの PTT と外部マイクのみ有効）
OUT　：本体 PTT 有効・本体マイク無効（外部マイクのみ有効、PTT は両方有効）
ALL　：本体 PTT 有効・本体マイク有効（オプションマイクの PTT と外部マイクも有効ですが、この設定は４極１軸ねじ込み式のイヤホンをお使いになる時のものです）

※　“OUT”“ALL”でスピーカーマイクを使うとき、本体 PTT を押してもスピーカーマイクから声を送信することはできません。スピーカーマイクの PTT を押して送信してください。

８：緊急通報時間設定(Emt)

設定値 10～60（初期値 10 秒）

緊急通報のアラーム鳴動時間と送信時間は 10 秒に初期設定されていますが、10 秒単位（最大 60 秒）で長くできます。

９：秘話通信周波数(SCF)

設定値 27～34（初期値 34：3.4KHｚ）

秘話設定のコード（正確には周波数ですが）を変えて、異なる秘話グループを作れます。変更するときは、通話したいグループ全員の設定を同じに揃えてください。

１０：秘話エンファシス(EmP)

設定値　ON/OFF（初期値 ON）

弊社製、他社製に限らず特定小電力トランシーバーの秘話通話は機種によって相性があり、音声が聞き取りづらい場合があります。聞き取りづらいと感じたときに、この設定を切り替えると改善される場合があります。

１１：減電池アラーム設定(btC)

設定値 OFF／5～60 秒（初期値 OFF）

ディスプレイ上の減電池表示とともに設定時間ごとに 1 回、電池が減っていることをアラーム音でもお知らせできます。音を鳴らす電力が消費されるため、アラーム間隔を短く設定するほど早く電池が切れます。

１２：グループ種類切り替え設定(Gr)
設定値 ton／Cd1／Cd2（初期値 ton）

※　中継通話には DCS は使えません。中継通話時は初期値（ton）を変更しないでください。
本機のグループトークは一般的な番号方式（トーンスケルチ）の他、DCS（デジタルコードスケルチ）に切り替えることができます。グループ種類切り替えを Cd1、Cd2 に設定し、通常のトーンスケルチと同様に通常画面で GROUP キーを押すことで DCS 番号を設定することができます。操作はトーンスケルチと同様に、FUNC キーを押しながら▲ 、▼キーを押します。通話グループ全員に同じ設定をします。

Cd1：01～83 の 83 通りのコード番号から選択できます。運用時はチャンネルと２桁の DCS 番号を表示します。
Cd2：Cd017～Cd754 の 108 通りのコードから選択できます。運用時はチャンネルと Cd を表示、FUNC キーを短く押すと Cd と３桁の DCS 番号を確認できます。FUNC キーを長く押しているとキーロック操作になるので注意してください。

１３：VOX 送信持続時間設定(vot)
設定値 01～30（初期値 10：1.0 秒）

VOX で送信したとき、音声が途切れても初期値では 1 秒間、送信状態を保持するので短い息継ぎしても途切れません。この時間を 0.1 秒～3.0 秒に変更できます。送受信の切り替えをテキパキと行いたいときに、設定を短めにすると使い勝手が向上しますが、黙るとすぐ送信が落ちることもあり、十分に動作確認をしてからお使いください。

１４：チャンネル表示設定(CH)
設定値 noL／SP／OFF（初期値 noL）

弊社製品のチャンネル表示は L01～L09、b01～b11 です。チャンネル表示設定を SP に変更することで 01～20 表示に変更することができます。他社製で、これに近い表示をしている機種のチャンネルに合わせやすくします。

noL	SP
b01～b11	01～11
L01～L09	12～20
b12～b29（中継）	01～18（中継）
L10～L18（中継）	19～27（中継）

OFF を選ぶとチャンネルを非表示（－－－－－－）にでき、別のユーザーからどのチャンネルで通話しているか見られずに済みます。非表示にしているときはチャンネルとグループ設定の変更はできません。再設定する場合はチャンネル表示を noL または SP にしてください。

１５：音量設定(EvoL)
設定値 L／H（初期値 L）

本体スピーカーとオプションスピーカーの音声出力（音量）をさらに大きくすることができます。
Ｈでは最大音量にすると少し歪むこと、イヤホンで使うと大きな音が出て耳を痛める原因になること、電池の消費が早まることなどから、初期状態ではＬにしています。Ｈに設定すると、電源スイッチを入れたとき「P322」の後に「EvoL-H」と表示されます。

１６：グループトーク判別精度(tn)
設定値 1～5（初期値 2）

他社製や弊社製の旧型機と混用すると、グループトークができないことあります。最新の部品を採用する本機でグループトーク信号の読み取り精度が非常にシビアなために起こる「相性問題」です。この設定をする前に、グループ番号を相性問題が起きにくい 10 番～37 番の間に変えてお試しください。それでも上手くいかないときだけ、判定精度をわざと甘くするこの項目をお試しください。1 が最も厳しく、5 が甘くなります。甘くし過ぎると近い番号のグループ信号でもスケルチが開くことがあり、テールノイズキャンセル機能も働かなくなるので、スケルチが切れるときの「ザ！」ノイズが聞こえます。初期値の 2 は、かなりシビアに判定します。

１７：サブ PTT キーの機能割り当て（SPt）
設定値 Pt／CH／EG／oP／vO／SC（初期値 Pt）

本機の PTT キー下にある「サブ PTT キー」は、初期状態ではデュアルオペレーション（ＤＯ）のサブ側チャンネル送信 PTT に割り当てられていますが、次の機能に変更することができます。

Pt ：サブ PTT
ＤＯのときのサブ側チャンネル送信機能です。普通の通話モードでは、大きい方の PTT キーと同じ動作をします。

参考：以下の設定をして DO を運用する時、サブ側送信するにはメイン PTT キーを２回押します。

CH ：サブ側チャンネル切り替え
3 秒間押し続けるとメイン側とサブ側に設定したチャンネルを入れ替えできます。ＤＯのサブ側チャンネル登録操作で、「２番目によく使うチャンネルと設定」を登録しておけば、普通の交互や交互通話中継時に素早く切り替えられます。いわば「コールチャンネル（よく使うチャンネルへのショートカット）」機能です。

【ご注意：デュアルオペレーション中は、サブ側チャンネルへの切り替えはできません。DO モードにするとサブ PTT を押しても何も反応しませんが、故障ではありません。】

EG ：緊急通報
3 秒間押し続けると緊急通報音が鳴り、同じチャンネルの受信側にも緊急通報音が鳴ります。（通常設定の緊急通報機能と同じ）

oP ：モニター
押すことでスケルチが無効になり、「ザー」というノイズが聞こえるようになります。もう一度押すと元に戻ります。（項目２１のモニターキー操作と同じ。下記２１「モニター機能」も合わせてよくお読みください。）

v0 ：ミュート　**※従来からのミュートで、弊社の自動解除機能が付く「受信音ミュート」ではありません。**
押すと受信音が一時的に最小になります。何かキーを押すか、送信すると解除されます。
自動では解除されないのでご注意ください。

SC ：チャンネルスキャン
3 秒間押し続けるとチャンネルスキャンが始まり、自動的にチャンネルを切り替えながら受信します。
信号を受信するとスキャンが止まり、信号が無くなるとスキャンを再開します。PTT キーを短く押すとスキャンは停止します。（開始時と同様にサブ PTT キーを長押ししても止まります）
※送信中、または VOX、個別呼出、通話圏内確認、チャンネル表示 OFF、デュアルオペレーション、連結中継子機で運用中は、スキャンはできません。また、スキャン中はバッテリーセーブとビジーアラームが動作しません。

１８：受信音ミュートディレイタイム(r-mudt)

設定値 1～5（初期値 3）

受信音ミュートのミュート保持時間を変更できます。ミュート解除忘れを防ぐための時間設定で、設定時間が過ぎると自動的に解除されます。使用環境に合わせてカスタマイズしてください。

1 → 5 秒、　2 → 10 秒、　3 → 15 秒、　4 → 30 秒、　5 → 60 秒

１９：テールノイズキャンセル設定(tC)

設定値 OFF／ON（初期値 ON）

グループトーク機能を入れていなくても、通話終了時に受信側から聞こえるテールノイズ（受信から待ち受けになるときの「ザ！」という短いノイズ音）を除去する「テールノイズキャンセル機能」のオンオフです。テールノイズキャンセル機能は送信側と受信側の両方が有効なときのみ動作するので、この機能が入っていない無線機と通話すると設定にかかわらずテールノイズは聞こえてしまいます。

２０：減電池スリープ(btS)

設定値 OFF／ON（初期値 ON）

スイッチを切り忘れるなどで過放電させると、バッテリーパックや乾電池の劣化や充電不良の原因になります。これを防ぐため電池の電圧が一定レベルまで低下すると、初期値の ON では自動的に電源を切ります。OFF にすると電池を最後まで使い切ることができますが、大きな差はありません。特殊な理由が無ければ ON でお使いください。いずれの設定でも待機電流は発生するので、長期間使わないときは、バッテリーパックは取りだして涼しい乾いた直射日光が当たらない場所に、無線機本体と一緒に保管してください。

２１：モニターキー操作(mKy)

設定値 OFF／ON／Hd（初期値 OFF）

スケルチに埋もれるような弱い信号を受信したいとき、簡単にスケルチを開放状態にする機能です。業務使用で誤操作すると大きなノイズが鳴り、故障と間違われるだけなので初期値の OFF（無効）をお勧めします。
この設定を ON にすると▲、▼キーを同時に押している間「ザー」というノイズが聞こえ、放すと元に戻ります。
設定を Hd にすると、1 回同時押しすると「ザー」というノイズが聞こえ、もう一度同時押しすると元に戻ります。
モニター中はグループトーク機能とバッテリーセーブも自動でオフになります。

２２：個別呼出設定(SEL)
設定値 OFF／ON（初期値 OFF）

通話開始時に呼出信号を送り、特定の個人やグループを選択して通話するモードです。

※この機能は中継通話とデュアルオペレーションの運用中、グループトーク（トーン、DCS)、通話圏内確認、連結中継器子機設定時は使用できず、個別呼出運用時は VOX が動作しません。個別呼出運用するときはこれらの機能をあらかじめオフにしてください。
※受信機の設定や送信するタイミングによって、相手の呼出信号のトーンが「ピポパポピ」のように聞こえることがありますが異常ではありません。
※個別呼出は全員の個別呼出設定を ON にして、次のページのイラストを参考に下記の「２３：個別グループ設定(myG)」と「２４：個体番号設定(myC)」をそれぞれあらかじめ設定しないと動作しません。
※この機能は秘話ではありません。何も個別呼び出し設定していない他人は、チャンネルを合わせるだけですべての通話を聞くことができます。

【操作】
個別呼出設定を ON にすると運用画面に「SL」が表示されます。PTT を押したまま「ピピピピピピピ」と呼び出し音が鳴り終わるまで待ちます。呼ばれたほうは「ピロピロピロ」と着信音が鳴り、呼んだ相手の個体番号を点滅表示します。
・発信側は「ピピピ…」の呼び出し音が完全に鳴り終わるまで話し始めないでください。
・着信側は「ピロピロ…」の着信音の途中でも、PTT を押すと通話ができます。PTT を押すまで発信者の個体番号表示は消えません。
・待ち受け時間を長くとらず、てきぱき通話している間は呼び出し操作手順無しで、通常の PTT 操作で通話できます。
・相手に信号が届いているかどうかは無線機側では判定できません。返信がなければ通話できないものと判断してください。

【呼び出し相手・グループの選択】
待ち受け中に FUNC を押しながら▲か▼を押すと呼び出し方法や相手を選択できます。

・SL-ALL：全員と通話できます。
・SL-C○○（00～99)：特定の個体番号（個人）を呼び出して通話できます。
・SL-G○○（00～19)：特定の個別グループに属する個体番号（個人）全員と通話できます。

２３：個別グループ設定(myG)
設定値 00～19（初期値 00)
個別呼出のグループ番号を設定します。選択できるグループ数は「00」～「19」の 20 通りから選べます。

２４：個体番号設定(myC)
設定値 00～99（初期値 00)
個別呼出の個体番号を設定します。「00」～「99」の 100 通りから選びます。

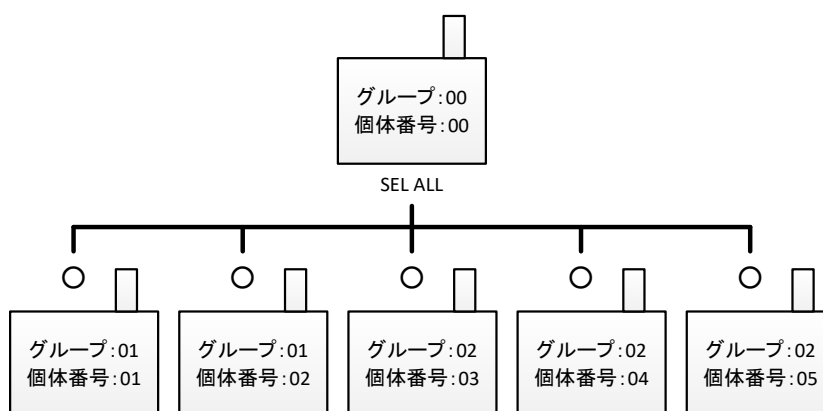
（次ページに続く）

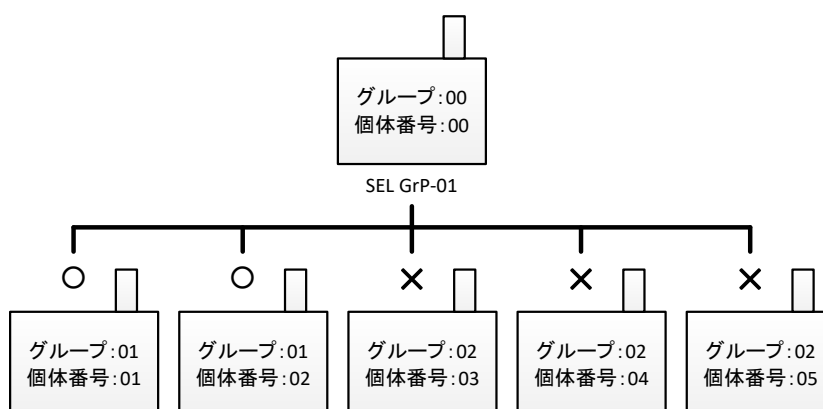
【個別呼出の設定例】

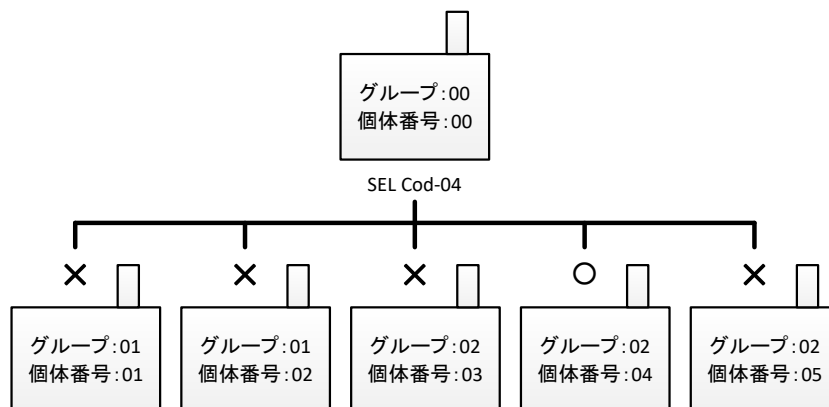
下の表は、６人で個別呼び出し通話をする例です。グループは一人だけの００、二人組の０１、三人組の０２の３つに分けています。個別番号は００から０５をそれぞれの個体に設定します。

・００さんは残り５人が通話する内容を普段は一切モニターしていません。運用グループの管理職で、部下を呼び出したり、指示を出したりするときだけ無線を使うユーザーです。
・０１さんと０２さん、０３～０５さんは普段、それぞれ「SL-G01 どうし」「SL-G02 どうし」に設定して、同じグループ内の人とだけ通話しています。部署が分かれていて、普段はあまり通話する必要がないためです。本機では１００ユーザーを２０まで、任意にグループ分けして運用できます。

① <u>ALL:全体呼び出し/個体番号００さんが全員を呼び出す</u>

００さんが「SL-ALL」にして送信。受信側はどんな設定になっていても全員００さんの呼び出しを受信して、だれでも００さんとそのまま設定を変えずに通話できます。但し、通話が切れて１０秒以上待ち受け状態が続くと００さんに応答できなくなり、SL-C00 や SL-G00 に切り替える必要があります。

② <u>G＊＊：グループ呼び出し/００さんがグループ 01 の二人だけを呼び出す</u>

００さんが「SL-G01」にして送信。受信側はどんな設定になっていても００さんの呼び出しを受信して、０１さんと０２さんはそのまま設定を変えずに００さんに応答できます。グループ０２の３人にはこの通話は聞こえません。但し、通話が切れて１０秒以上待ち受け状態が続くと００さんに応答できなくなり、SL-C00 や SL-G00 に切り替える必要があります。

③ C＊＊：個別呼び出し/００さんが個体番号０４さんだけを呼び出す

００さんが SL-C04 にして送信。０４さんはどんな設定になっていても００さんの呼び出しを受信して、そのまま設定を変えずに応答できます。但し、通話が切れて１０秒以上待ち受け状態が続くと００さんに応答できなくなり、SL-C00 や SL-G00 に切り替える必要があります。

２５：通話圏内確認設定(ArC)

設定値 OFF／ON（初期値 OFF）

グループトーク通信中の待ち受け時に、液晶画面左端に相手との通話が可能かどうかの目安を表示できます。

※通話圏内確認機能は、通話したいグループ全員の通話圏内確認を ON にして必ず同じグループ番号に合わせてください。グループトーク機能を使わないとこの機能は動作しません。
※この機能は中継通話、個別呼出、連結中継器子機、デュアルオペレーション時には使用できません。

【確認中】
「☰ 」点滅：圏内に通話できる無線機があるか、検索しています。
「Ｃ 」点灯：通話可能かどうか確認するための信号を送っています。

【確認後】
「☰ 」点灯：信号は強く良好な通話が可能。
「＝ 」点灯：信号は普通、おおむね良好な通話が可能。
「＿ 」点灯：通話が可能だが信号は弱く、途切れることがある。
「＿ 」点滅：相手が離れているか電源が切られているなどで、通話できない。

※約 1 分毎に通話確認しますが、その自動送信タイミングが偶然相手と重なると正しく判断できません。このため、本体の電源を入れるときは全員が少しずつタイミングをずらしてください。
※　3 人以上のグループで使うと、各人の位置によって状態を正しく表示できない場合がありますが、通話の質に関係はありません。

２６：レストア(rSt)

設定値 OFF／Sv／Ld／Er（初期値 OFF）

チャンネル情報、セットモード情報をリセットしても消えないように記憶させ、復元させる機能です。
リセット後の面倒な設定やり直しをせずに済みます。

＊本体を記憶させたい状態に設定したあと、▲ 、▼キーで Sv/Ld/Er を選びます。

Sv: GROUP キーを 2 秒押し続けるとチャンネル情報、セットモード情報が保存され「wt-rSt」を表示します。
新しい設定を登録するときもこの操作を繰り返せば、上書きできます。

Ld: GROUP キーを 2 秒押し続けると保存した情報を復元します。復元が終わると「rd-rSt」が表示され、自動的に再起動します。何も保存されていない場合、「no-rSt」が表示され読み出しがキャンセルされます。

Er: GROUP キーを 2 秒押し続けると記憶させた情報を消去します。終わると「Er-rSt」が表示されます。完全に

工場出荷状態まで戻す時は、消去してから拡張セットモードのリセットをしてください。
（リセット方法は本書の巻末を参照ください。）

２７：中継器の周波数帯設定(rECH)
設定値 A／b（初期値 A）

中継器を使用するときの周波数帯を変更できます。変更すると中継チャンネル設定で、ディスプレイ左上の「A」表示が「b」表示になります。

※弊社製の中継器、トランシーバーをお使いになるときは敢えて変更する必要はありません。標準で自動的に適切な組み合わせになります。

※使用する中継器の設定を確認ください。周波数帯は中継器と逆に設定します。中継器が A なら子機を B に、中継器が B なら子機を A にします。

２８：ビジーアラーム(bSy)
設定値 OFF／SE／01～30 秒（初期値 OFF）

自分の通話グループとは違う他人が同じチャンネルで通話をしていても、グループトーク機能を設定しているとその混信は聞こえず、送信時に「プププ」と警告されて初めて気づきます。ビジーアラームはこの「聞こえない混信」があるとビープ音でお知らせする機能です。

SE ：別グループの信号を受信し始めたときと、受信を終わったときにそれぞれビープ音が鳴ります。
1～30 ：別グループの電波を受信中、一定間隔でビープ音が鳴ります。1、5、10、30 秒の中から選べます。

２９：連結中継アクセス速度設定(LKS)
設定値 nL／FS（初期値 nL）

連結中継の通話開始（応答）のときのアクセス速度を変更できます。初期値の「nL(通常)」は通信精度を優先するためアクセスに時間がかかり、長めの頭切れが発生します。
「FS（高速)」に切り替えると通信速度を優先するようになり、この頭切れを緩和することができます。
ただし、別の電波類、ノイズなどからの干渉を受けやすくなり、混信の多い環境では最寄りの中継器を誤認することがあります。使用環境にあわせて、最適な設定でお使いください。

※連結中継に使用するすべての中継器と子機を同じ設定値にしてください。

３０：連結中継ビーコン間隔時間設定(LKb)と手動アクセス設定
設定値 OFF／5～60 秒（初期値 10 秒）

【間隔設定】
中継器は子機に最寄りの中継器を判定させるのに、10 秒ごとに 1 回、中継器から約 1 秒間ビーコン（目印の信号）を送信します。そのビーコンを送信しているときに通話が始まるとキャリアセンスが働き、しばらく通話できないことから頭切れが発生します。そのビーコン送出の間隔を長くすると頭切れの発生頻度を少なくすることができますが、子機が最寄りの中継器を探しだす時間も長くなります。逆にビーコンの間隔を短くすると子機が最寄りの中継器を探しだす時間は速くなりますが、頭切れの発生頻度が多くなってしまいます。使用者の通話頻度や移動頻度にあわせて調整してください。

【固定アクセス】
例えばすべてのユーザーに最寄りの中継器が決まっていて、他の中継器にはたびたびアクセスする必要がない（ユーザーが中継機の間をひんぱんに移動しない）環境では、最寄りの中継器を自動で探す必要がありません。手動にすると前述のような頭切れやアクセス速度の改善が得られ、使い勝手が向上します。中継器でこの設定を「OFF」にしたあと、子機の GROUP キーを押して中継器自動スキャン機能を OFF にします。OFF になるとディスプレイの「.」(ドット)マーク表示が点滅から点灯に変わります。すべての子機にこの操作をします。ドット点灯中に▲ 、▼キーを押すとアクセスしたい（最寄りの）中継器を手動で選べます。

※連結中継に使用するすべての中継器と子機を同じ設定値にしてください。
※バッテリーセーブ設定していても、ビーコン間隔時間によって電池の消耗が変わります。ビーコン間隔時間が長いと電池の消耗が少なく、短いと多くなります。ビーコン時間を 5 秒、またはビーコン機能を OFF にした場合、バッテリーセーブが働かないため、電池の消耗がより早くなります。

３１：連結中継アクセス音・エンドピー設定(LKP)
設定値 OFF／St／Ed／SE（初期値 SE）

連結中継の通話開始（応答）のときのアクセス音「ピピ」と、通話終了時に鳴るエンドピー音の動作を切り替える機能です。連結中継モードでのエンドピーはこの設定が優先となり、通常のセットモード項目「エンドピー」では変更できません。
SE：アクセス音、エンドピーの両方が鳴ります。
Ed：エンドピーのみ鳴ります。
St ：アクセス音のみ鳴ります。
oF：アクセス音、エンドピーは両方とも鳴りません。

※連結中継に使用するすべての中継器と子機を同じ設定値にしてください。
　アクセス音を止めた場合、応答から中継通話を始められるまでのタイミングが分かりづらくなります。
　通話開始のときは長めに時間をおいてから話してください。

［セットモード拡張方法］
1：キーロックを掛けます。(2 つあるうちの、どちらの方法でも構いません。)
2：GROUP キーを 5 回連続で押します。10 秒以内に 5 回押さないと有効になりません。
　キー操作が有効であれば「ピピッ」とビープ音が鳴ります。
3：自動的にキーロックが解除されます。
4：セットモードに入ると上記のメニューが追加されています。操作も通常のセットモードと同じです。
＊ 変更した値を保存して拡張メニューを隠すには、上記 1～4 の操作を繰り返します。

［拡張項目のリセット］
＊ チャンネルや通常のセットモードも含んで、全てを工場出荷状態まで初期化するには、電源を切った後フロントパネル上の▼、▲、FUNC キーの 3 つ全てを押したままで電源を入れ、画面が全点灯したら指を放します。ＬＯ１で起動したら工場出荷状態です。
＊ 説明書に記載のリセット（ＦＵＮＣキーを押しながら電源を入れる）では拡張セットモードは閉じず、設定した値も初期化されません。拡張セットモード以外の設定だけが工場出荷状態に戻ります。
＊ 本書の「２６　レストア機能」をお使いの時は「ER　消去」操作をしてからリセットしてください。

以上

アルインコ（株）電子事業部